

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
ECC国際外語専門学校		昭和59年2月20日		大谷内 圭		〒 530-0015 (住所) 大阪府大阪市北区中崎西2-1-6 (電話) 06-6311-1446	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地	
学校法人山口学園		昭和58年11月22日		酒元 英二		〒 530-0015 (住所) 大阪府大阪市北区中崎西2-3-35 (電話) 06-6366-0144	
分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年	
文化・教養	語学ビジネス専門課程	エアライン・観光学科 (ホテルコース)		平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度	
学科又は専攻科の目的	グローバルな視野と高いコミュニケーション力を有し、ホテル業界で求められている知識と、ホスピタリティを実施することができる人財育成を目的とする。						
学科又は専攻科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	コース専門科目では、ホテル業界に必要な専門スキルや知識を身に付ける。共通英語科目では、「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語の4技能に加え、自ら探究し、自分の考えを深め、思いを発信する自律技能3技能「調べる」「考える」「伝える」の全7技能を養う。						
修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	63 単位	単位	48 単位	32 単位	単位	単位
学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
88 人の内数	0 人	0 人	0 %	0 %			
就職等の状況	■卒業者数 ㉔ 0 人						
	■就職希望者数 (D) 0 人						
	■就職者数 ㉞ 0 人						
	■地元就職者数 (F) 0 人						
	■就職率 (E/D) 0 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E) 0 %						
	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C) 0 %						
	■進学者数 0 人						
	■その他						
	(令和 7 年度卒業者にに関する令和 8 年 5 月 1 日時点の情報)						
■主な就職先、業界等							
(令和7年度卒業生)							
2026年度新設コースにつき、卒業生なし							
当該学科又は専攻科のホームページ URL	https://kokusai.ecc.ac.jp/course/hotel/						
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	総単位数		62 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		1 単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位				
	うち必修単位数		1 単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		1 単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位				
教員の属性 (専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)			0 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)			1 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)			0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)			0 人			
	計			1 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員 (分野におけるおおむね 5 年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定) の数			1 人			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

(1)教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回 令和7年7月15日 15:00～17:00/第2回 令和8年3月4日 15:00～17:00
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

(特筆すべき工夫等)

(2)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月15日現在			
名 前	所 属	任期	種別
福井 晃	一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
川戸綾子	IHG Japan Osaka合同会社 インターコンチネンタルホテル大阪	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
増田 園	三井不動産 リゾートマネジメント株式会社 HOTEL THE MITSUI KYOTO	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
大谷内 圭	ECC国際外語専門学校 校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
東井 喜美	ECC国際外語専門学校 副校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
杉田 典彦	ECC国際外語専門学校 キャリアセンター責任者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
榊原 悠祐	ECC国際外語専門学校 教務課責任者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
南條 祐麻	ECC国際外語専門学校 入試課責任者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

(特筆すべき工夫等)

(2)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科目概要	連 携 企 業 等
Hotel ManagementⅢA	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ホテルの組織管理や運営を学び、管理部門に関する業務知識を身に付ける。	三井不動産 リゾートマネジメント株式会社 HOTEL THE MITSUI KYOTO

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記	
「教務規約第35条」に定められている通り、以下の基本方針を定めている。 1. 推薦学科の教員に対する研修・研究の目的 教員の質を一定以上に保つことと技術の向上のために、業界で使用されている標準技術、最新技術等を教員が直接企業等から学ぶ研修と、教授技術等の教育に関わる研修を毎年度それぞれ1回以上実施する。 2. 推薦学科の教員に対する研修・研究の運営 研修については講師を本校に迎え入れて教員全員が同時に受講する全体研修と、一部の教員が参加する外部研修を適時組み合わせる。一部の教員が参加する外部研修については、その研修内容について報告会を実施するなどして教員全体へその情報を伝える。	
(2) 研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： ホテルマネージメント研修 期間： 令和7年6月21日 内容 ホテルにおける管理職の役割や人材の採用・育成に関するレクチャーとともに、最新の施設や客室を見学し、業界の最新トレンドに関する理解を深めます。	連携企業等： HOTEL THE MITSUI KYOTO 対象： 専任教員
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： Hyper-QUの結果分析とクラスづくり・学生支援 期間： 令和7年12月1日 内容 Hyper-QUの結果を活用し、クラスの状況や学生一人ひとりの様子を把握しながら、より安心して学べるクラスづくりについて考えます。	連携企業等： 株式会社図書文化社 対象： 教職員
研修名： 配慮が必要な学生を支える授業マネジメント 期間： 令和7年7月28日 内容 発達特性や精神面、家庭環境など、さまざまな事情を抱える学生への理解を深めます。合理的配慮と学修成果の両立を踏まえ、学生個々の特性や習熟度に応じた指導方法、効果的な声かけ、授業運営の工夫について学びます。	連携企業等： 特定非営利活動法人 キッズレクリエーションクラブ 対象： 教職員
研修名： コンプライアンス研修 期間： 令和8年3月2日 内容 学校現場で起こりやすい「カスハラ」「アカハラ」について理解を深め、具体的なケーススタディを通じて、未然防止に向けた取り組みや適切な対応方法を学ぶとともに、教職員が安心して教育活動に取り組める環境づくりについて考えます。	連携企業等： 鳩谷・別城・山浦法律事務所 対象： 教職員
(3) 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： ホテルマネージメント研修 期間： 令和9年2月10日 内容 ホテルにおける管理職の業務や役割、最新の施設・客室の見学を通じて施設運営の工夫を学ぶとともに、社員の採用・育成に関する取り組みについて理解を深めます。	連携企業等： HOTEL THE MITSUI KYOTO 対象： 教職員
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： Hyper-QUアンケート結果の活用研修 期間： 令和8年12月1日 内容 休退学防止の一環として実施しているHyper-QUの結果をもとに、学生対応や組織づくりにおける課題を可視化し、改善に向けた具体的な取り組みにつなげます。	連携企業等： 株式会社図書文化社 対象： 教職員
研修名： ハラスメント防止と学生指導における実践的対応研修 期間： 令和9年3月1日 内容 学校現場で起こりやすいハラスメントや学生指導上の問題事例を取り上げ、ロールプレイ形式で具体的な場面を想定しながら、適切な対応方法や防止策について実践的に検討し、理解を深めます。	連携企業等： 合同会社 JEIT 対象： 教職員
4. 「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係	
○学校関係者評価	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目的・目標	
1 教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
(2)学校運営	
1 教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2 教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3 単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている

4 学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
(3)学生の受入れ、学生支援	
1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2 自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
4 学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている
(4)教育実施組織・教員	
1 教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的にを行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にを行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1 教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1 中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2 学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)	同内容評価項目を設けている
3 学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的にを行っていること。	同内容評価項目を設けている
4 社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得よう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年10月15日現在

名 前	所 属	任期	種別
五十嵐 駿太	株式会社 With The World 代表取締役社長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員
國府 昭義	三井不動産 リゾートマネジメント株式会社 HOTEL THE MITSUI KYOTO 人材開発部長 HOTEL THE MITSUI HAKONE 副総支配人/人材開発部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
中上 隆雄	済美地域社会福祉協議会 会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	地域委員
貴治 康夫	高等学校教員	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	高校教員
小笠原 梨乃	卒業生	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生
池田 里佳子	卒業生	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	卒業生
岩本 輝男	保護者	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合
公表URL	https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/	
公表時期	令和8年10月20日	

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合
公表URL	https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self_evaluation/	
公表時期	令和8年7月31日	

授業科目等の概要

(語学ビジネス専門課程 エアライン・観光学科(ホテルコース))															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等 との 連携
	必 修	選 択 必 修	自由 選 択					講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1		○		Weekly English Goals1 I A	GRIT(やり抜く力)を身に付け、英語学習に生かします。 その週の学習ポイントと目標達成までの進捗状況を担当講師と確認します。 毎日の学習状況を細かく記録し、学習成果を高めるレッスンです。 勉強方法のTipsを学びオンライン問題に挑戦し、自律した学習者になる為の習慣作りを行います。	1 前	2		○		○		○		
2		○		Weekly English Goals2 I A	GRIT(やり抜く力)を身に付け、英語学習に生かします。 その週の学習ポイントと目標達成までの進捗状況を担当講師と確認します。 毎日の学習状況を細かく記録し、学習成果を高めるレッスンです。 勉強方法のTipsを学びオンライン問題に挑戦し、自律した学習者になる為の習慣作りを行います。	1 前	2		○		○		○		
3		○		Weekly English Goals3 I A	GRIT(やり抜く力)を身に付け、英語学習に生かします。 その週の学習ポイントと目標達成までの進捗状況を担当講師と確認します。 毎日の学習状況を細かく記録し、学習成果を高めるレッスンです。 勉強方法のTipsを学びオンライン問題に挑戦し、自律した学習者になる為の習慣作りを行います。	1 前	2		○		○		○		
4		○		Both Sides of the Issues4(L) I A	This class is intended to be an introduction to critical thinking, and uses readings, videos, and research to develop group presentations reflecting students' opinions.	1 前	2		○		○			○	
5		○		Both Sides of the Issues4(U) I A	This class is intended to be an introduction to critical thinking, and uses readings, videos, and research to develop group presentations reflecting students' opinions.	1 前	2		○		○			○	
6		○		Speak Up1 I A	・CEFRレベル別に、文法シラバスに基づき、場面別の会話表現を学ぶ。自身のことについて話せるようになる。 ・英会話の基本的な表現をリスニングと口頭練習を通して習得し、自身のことについてセンテンスで話せるようになる。 相手に正しいセンテンスで話せるようになる。Speak Up2→3と進むにつれ、続ける会話の量と情報を増やす。 ・アカデミックな環境・ビジネスシーンでの言葉遣い、ショートメール・日常会話・ポッドキャスト・スピーチで使う表現を習得する。	1 前	2		○		○		○		
7		○		Speak Up2 I A	・CEFRレベル別に、文法シラバスに基づき、場面別の会話表現を学ぶ。自身のことについて話せるようになる。 ・英会話の基本的な表現をリスニングと口頭練習を通して習得し、自身のことについてセンテンスで話せるようになる。 相手に正しいセンテンスで話せるようになる。Speak Up2→3と進むにつれ、続ける会話の量と情報を増やす。 ・アカデミックな環境・ビジネスシーンでの言葉遣い、ショートメール・日常会話・ポッドキャスト・スピーチで使う表現を習得する。	1 前	2		○		○		○		
8		○		Speak Up3 I A	CEFRレベル別に、文法シラバスに基づき、場面別の会話表現を学ぶ。自身のことについて話せるようになる。 ・英会話の基本的な表現をリスニングと口頭練習を通して習得し、自身のことについてセンテンスで話せるようになる。 相手に正しいセンテンスで話せるようになる。Speak Up2→3と進むにつれ、続ける会話の量と情報を増やす。 ・アカデミックな環境・ビジネスシーンでの言葉遣い、ショートメール・日常会話・ポッドキャスト・スピーチで使う表現を習得する。	1 前	2		○		○		○		
9		○		Speak Up4-o(L) I A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	1 前	2		○		○			○	
10		○		Speak Up4-o(U) I A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	1 前	2		○		○			○	
11		○		Daily English1 I A	This is a low to medium level class that teaches fun, frequently used English phrases. These phrases include slang, idioms and expressions that are often used but cannot be found in the dictionary and are typically not taught in school. The goal of the class is to remember English phrases. 毎回授業の最初に前週までに学んだ表現をビルドアップ方式で完全暗記をします。 コミック形式のライティングで学んだ表現のアウトプットを行います。	1 前	2		○		○			○	
12		○		Daily English2 I A	This is a low to medium level class that teaches fun, frequently used English phrases. These phrases include slang, idioms and expressions that are often used but cannot be found in the dictionary and are typically not taught in school. The goal of the class is to remember English phrases. 毎回授業の最初に前週までに学んだ表現をビルドアップ方式で完全暗記をします。 コミック形式のライティングで学んだ表現のアウトプットを行います。	1 前	2		○		○		○		
13		○		Daily English3 I A	This is a low to medium level class that teaches fun, frequently used English phrases. These phrases include slang, idioms and expressions that are often used but cannot be found in the dictionary and are typically not taught in school. The goal of the class is to remember English phrases. 毎回授業の最初に前週までに学んだ表現をビルドアップ方式で完全暗記をします。 コミック形式のライティングで学んだ表現のアウトプットを行います。	1 前	2		○		○			○	
14		○		World Voices4(L) I A	This class is a listening-focused class where students practice listening to second-language English speakers from around the world as well as practice fluency points from native speakers. Listening activities are supplemented with readings about international topics, research, and informal class presentations.	1 前	2		○		○			○	

15		○		World Voices4(U) I A	This class is a listening-focused class where students practice listening to second-language English speakers from around the world as well as practice fluency points from native speakers. Listening activities are supplemented with readings about international topics, research, and informal class presentations.	1 前	2		○		○		○			
16		○		Practical Grammar1 I A	中学3年程度までの英文法を完璧に理解し、英作文や会話で自分の表現として使えることを目指します。問題を解く形式で文法への理解を深めます。正しい答えを選べるだけでなく、なぜ他の選択肢がダメなのかを自身で説明できるようにまで理解できることを目指します。	1 前	2		○		○		○	○		
17		○		Practical Grammar2 I A	高校中級程度までの英文法を完璧に理解し、英作文や会話で自分の表現として使えることを目指します。問題を解く形式で文法への理解を深めます。問題を解くだけでなく、なぜ他の選択肢がだめなのかを説明できるまで理解を深めることを目標とします。	1 前	2		○		○			○		
18		○		Practical Grammar3 I A	英文法を基礎からしっかりとやり直し、深く理解することによって、英語の土台を築いていきます。英文の仕組みが分かれば、会話や読解にも応用が効きます。	1 前	2		○		○			○		
19		○		Writing to Explore International Culture4 (L) I A	自国の文化と異文化をトピックに、毎回異なったライティングスタイルでまとめた量の英文を書き、発表します。授業は週2回行い、毎週2回目の授業には留学生が参加し、留学生は自国の文化について説明をします。	1 前	2		○		○			○		
20		○		Writing to Explore International Culture4(U) I A	自国の文化と異文化をトピックに、毎回異なったライティングスタイルでまとめた量の英文を書き、発表します。授業は週2回行い、毎週2回目の授業には留学生が参加し、留学生は自国の文化について説明をします。	1 前	2		○		○			○		
21		○		Practical Reading1 I A	読解力の向上と要約力の習得を目指し、社会的な内容の英文を読み、文章の展開パターンを理解し、内容理解を行います。語彙の強化も行います。	1 前	2		○		○			○		
22		○		Practical Reading2 I A	読解力の向上と要約力の習得を目指し、社会的な内容の英文を読み、文章の展開パターンを理解し、内容理解を行います。語彙の強化も行います。	1 前	2		○		○			○		
23		○		Practical Reading3 I A	読解力の向上と要約力の習得を目指し、社会的な内容の英文を読み、文章の展開パターンを理解し、内容理解を行います。語彙の強化も行います。	1 前	2		○		○			○		
24		○		Speak Up4-e(L) I A	This class focuses on building reading and research skills through using authentic English language websites.	1 前	2		○		○			○		
25		○		Speak Up4-e(U) I A	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	1 前	2		○		○			○		
26		○		TOEIC1 I A	TOEIC Listening & Reading テストのスコアアップを目指します。	1 前	2		○		○			○	○	
27		○		TOEIC2 I A	TOEIC Listening & Reading テストのスコアアップを目指します。	1 前	2		○		○			○		
28		○		TOEIC3 I A	TOEIC Listening & Reading テストのスコアアップを目指します。	1 前	2		○		○			○		
29		○		TOEIC4 I A	TOEIC Listening & Reading テストのスコアアップを目指します。	1 前	2		○		○			○		
30	○			ICTリテラシー基礎A	社会に出るにあたって必要となるICT活用力を身に付けるための、PCの運用力と活用力を醸成します。	1 前	1			○	○		○			
31	○			サービス接遇検定対策(3級) I A	お客様に満足いただける「ホスピタリティマインド」を知識と技術の双方の面から学ぶ。前期の検定取得目標は3級です。当のサービスや接遇について理解をもち、基本的な接客サービスを行うのに必要な知識・技能を身につけるように学習します。また、コミュニケーションの基本や言葉の大切さを学び、体現できるようにします。	1 前	1			○	○			○		
32	○			プレゼンテーション A	プレゼンテーションの基本を理解し、聞き手に配慮した構成と話法を学ぶことで、説得力と影響力のあるプレゼンテーション能力を身につける。	1 前	1			○	○				○	
33	○			キャリアデザイン基礎(KHT) SA	積極的な自己との向き合い、後期に控える就職活動に向け、意識の改革を行なう。ホテルマン(サービスマン)の心構えを知り、モチベーションアップを図ります。	1 前	1			○	○			○		
34	○			フロントオフィスサービス SA	宿泊部門で求められている知識を習得することを目指して、各セクションの業務内容や基礎知識を取り扱います。又、接客技術やマナーを体得することを目指して、各セクションのロールプレイングを多用し、現場対応力を身に付けていきます。	1 前	1			○	○				○	
35	○			レストランサービス実習 SA	ホテル・レストランで勤務する場合の基礎知識習得を目指して、主に什器備品の名称や用途、それら各種道具類についての基礎学習を取り扱います。	1 前	1			○	○				○	
36	○			Food & Beverage基礎 I A	ホテル・レストランで勤務する場合の基礎知識習得を目指して、主に料理や飲料の幅広い基礎学習を取り扱います。	1 前	1			○	○				○	
37	○			Hotel English I A	ホテル業界で求められる「専門力」の一環として、共通英語科目では取り上げない専門的な英語表現を学ぶ。特に自ら「調べる」「考える」ことを重視し、苦手意識を持たずに取り組むことで「英語での接客対応力全般」の土台を作上げることを目指す。	1 前	1			○	○			○		
38		○		Weekly English Goals1 I B	GRIT(やり抜く力)を身に付け、英語学習に生かします。その週の学習ポイントと目標達成までの進捗状況を担当講師と確認します。毎日の学習状況を細かく記録し、学習成果を高めることを目指します。勉強方法のTipsを学びオンライン問題に挑戦し、自律した学習者になるための習慣作りを行います。	1 後	2		○		○				○	

39		○	Weekly English Goals2 I B	GRIT(やり抜く力)を身に付け、英語学習に生かします。 その週の学習ポイントと目標達成までの進捗状況を担当講師と確認します。 毎日の学習状況を細かく記録し、学習成果を高めることを目指します。 勉強方法のTipsを学びオンライン問題に挑戦し、自律した学習者になるための習慣作りを行います。	1 後	2		○		○				○	
40		○	Weekly English Goals3 I B	GRIT(やり抜く力)を身に付け、英語学習に生かします。 その週の学習ポイントと目標達成までの進捗状況を担当講師と確認します。 毎日の学習状況を細かく記録し、学習成果を高めることを目指します。 勉強方法のTipsを学びオンライン問題に挑戦し、自律した学習者になるための習慣作りを行います。	1 後	2		○		○			○		
41		○	Weekly English Goals4 I B	GRIT(やり抜く力)を身に付け、英語学習に生かします。 その週の学習ポイントと目標達成までの進捗状況を担当講師と確認します。 毎日の学習状況を細かく記録し、学習成果を高めることを目指します。 勉強方法のTipsを学びオンライン問題に挑戦し、自律した学習者になるための習慣作りを行います。	1 後	2		○		○			○		
42		○	Both Sides of the Issues4(L) I B	This class is intended to be an introduction to critical thinking, and uses readings, videos, and research to develop group presentations reflecting students' opinions.	1 後	2		○		○				○	
43		○	Both Sides of the Issues4(U) I B	This class is intended to be an introduction to critical thinking, and uses readings, videos, and research to develop group presentations reflecting students' opinions.	1 後	2		○		○				○	
44		○	Speak Up1 I B	・CEFRレベル別に、文法シラバスに基づき、場面別の会話表現を学ぶ。自身のことについて話せるようになる。・英会話の基本的な表現をリスニングと口頭練習を通して習得し、自身のことについてセンテンスで話せるようになる。相手に正しいセンテンスで話せるようになる。Speak Up2→3と進むにつれ、続ける会話の量と情報を増やす。・アカデミックな環境・ビジネスシーンでの言葉遣い、ショートメール・日常会話・ポッドキャスト・スピーチで使う表現を習得する。	1 後	2		○		○			○		
45		○	Speak Up2 I B	・CEFRレベル別に、文法シラバスに基づき、場面別の会話表現を学ぶ。自身のことについて話せるようになる。・英会話の基本的な表現をリスニングと口頭練習を通して習得し、自身のことについてセンテンスで話せるようになる。相手に正しいセンテンスで話せるようになる。Speak Up2→3と進むにつれ、続ける会話の量と情報を増やす。・アカデミックな環境・ビジネスシーンでの言葉遣い、ショートメール・日常会話・ポッドキャスト・スピーチで使う表現を習得する。	1 後	2		○		○			○	○	
46		○	Speak Up3 I B	・CEFRレベル別に、文法シラバスに基づき、場面別の会話表現を学ぶ。自身のことについて話せるようになる。・英会話の基本的な表現をリスニングと口頭練習を通して習得し、自身のことについてセンテンスで話せるようになる。相手に正しいセンテンスで話せるようになる。Speak Up2→3と進むにつれ、続ける会話の量と情報を増やす。・アカデミックな環境・ビジネスシーンでの言葉遣い、ショートメール・日常会話・ポッドキャスト・スピーチで使う表現を習得する。	1 後	2		○		○				○	
47		○	Speak Up4-o(L) I B	本授業では、National Geographic Learning の Life 3 を用い、実社会で必要とされる英語運用能力(読む・聞く・話す・書く)を統合的に育成する。特に、自分の意見を理由とともに述べる力、情報を整理して伝える力の向上を目指す。	1 後	2		○		○				○	
48		○	Speak Up4-o(U) I B	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	1 後	2		○		○				○	
49		○	Daily English1 I B	This is a low to medium level class that teaches fun, frequently used English phrases. These phrases include slang, idioms and expressions that are often used but cannot be found in the dictionary and are typically not taught in school. The goal of the class is to remember English phrases. 毎回授業の最初に前週までに学んだ表現をビルドアップ方式で完全暗記をします。 コミック形式のライティングで学んだ表現のアウトプットを行います。	1 後	2		○		○				○	
50		○	Daily English2 I B	This is a low to medium level class that teaches fun, frequently used English phrases. These phrases include slang, idioms and expressions that are often used but cannot be found in the dictionary and are typically not taught in school. The goal of the class is to remember English phrases. 毎回授業の最初に前週までに学んだ表現をビルドアップ方式で完全暗記をします。 コミック形式のライティングで学んだ表現のアウトプットを行います。	1 後	2		○		○				○	
51		○	Daily English3 I B	This is a low to medium level class that teaches fun, frequently used English phrases. These phrases include slang, idioms and expressions that are often used but cannot be found in the dictionary and are typically not taught in school. The goal of the class is to remember English phrases. 毎回授業の最初に前週までに学んだ表現をビルドアップ方式で完全暗記をします。 コミック形式のライティングで学んだ表現のアウトプットを行います。	1 後	2		○		○			○	○	
52		○	World Voices4(L) I B	本授業では、National Geographic Learning の Life 3 を用い、実社会で必要とされる英語運用能力(読む・聞く・話す・書く)を統合的に育成する。特に、自分の意見を理由とともに述べる力、情報を整理して伝える力の向上を目指す。	1 後	2		○		○				○	
53		○	World Voices4(U) I B	本授業では、National Geographic Learning の Life 3 を用い、実社会で必要とされる英語運用能力(読む・聞く・話す・書く)を統合的に育成する。特に、自分の意見を理由とともに述べる力、情報を整理して伝える力の向上を目指す。 学習到達目標授業修了時に、学生は以下ができる：	1 後	2		○		○			○		
54		○	Practical Grammar1 I B	中学3年程度までの英文法を完璧に理解し、英作文や会話で自分の表現として使えることを目指します。 問題を解く形式で文法への理解を深めます。正しい答えを選ぶだけでなく、なぜ他の選択肢がダメなのかを自身で説明できるようにまで理解できることを目指します。	1 後	2		○		○				○	
55		○	Practical Grammar2 I B	高校中級程度までの英文法を完璧に理解し、英作文や会話で自分の表現として使えることを目指します。問題を解く形式で文法への理解を深めます。問題を解くだけでなく、なぜ他の選択肢がダメなのかを説明できるまで理解を深めることを目標とします。	1 後	2		○		○				○	
56		○	Practical Grammar3 I B	英文法を基礎からしっかりとやり直し、深く理解することによって、英語の土台を築いていきます。英文の仕組みが分かれば、会話や読解にも応用が効きます。	1 後	2		○		○				○	
57		○	Writing to Explore International Culture4(L) I B	自国の文化と異文化をトピックに、毎回異なるライティングスタイルでまとめた量の英文を書き、発表します。 授業は週2回行い、毎週2回目の授業には留学生が参加し、留学生は自国の文化について説明をします。	1 後	2		○		○				○	

58		○	Writing to Explore International Culture4(U) I B	自国の文化と異文化をトピックに、毎回異なったライティングスタイルでまとめた量の英文を書き、発表します。授業は週2回行い、毎週2回目の授業には留学生が参加し、留学生は自国の文化について説明をします。	1 後	2		○		○				○	
59		○	Practical Reading1 I B	読解力の向上と要約力の習得を目指し、社会的な内容の英文を読み、文章の展開パターンを理解し、内容理解を行います。語彙の強化も行います。	1 後	2		○		○			○	○	
60		○	Practical Reading2 I B	読解力の向上と要約力の習得を目指し、社会的な内容の英文を読み、文章の展開パターンを理解し、内容理解を行います。語彙の強化も行います。	1 後	2		○		○				○	
61		○	Practical Reading3 I B	読解力の向上と要約力の習得を目指し、社会的な内容の英文を読み、文章の展開パターンを理解し、内容理解を行います。語彙の強化も行います。	1 後	2		○		○				○	
62		○	Speak Up4-e(L) I B	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	1 後	2		○		○				○	
63		○	Speak Up4-e(U) I B	Focus on critical thinking, discussion, listening, pronunciation and vocabulary building.	1 後	2		○		○				○	
64		○	TOEIC1 I B	TOEIC Listening & Reading テストのスコアアップを目指します。	1 後	2		○		○				○	
65		○	TOEIC2 I B	TOEIC Listening & Reading テストのスコアアップを目指します。	1 後	2		○		○				○	
66		○	TOEIC3 I B	TOEIC Listening & Reading テストのスコアアップを目指します。	1 後	2		○		○				○	
67		○	TOEIC4 I B	TOEIC Listening & Reading テストのスコアアップを目指します。	1 後	2		○		○				○	
68	○		ICTリテラシー応用B	ICT技術を利用した業務遂行に必要な知識や技術の習得を目指す。	1 後	1			○	○		○			
69	○		サービス接遇検定対策(2級・準1級) I B	お客様に満足いただける「ホスピタリティマインド」を知識と技術の双方の面から学び、接客適性を磨きます。そして、資格取得試験を通して、本当のサービスや接遇について理解をもち、基本的な接客サービスを行うのに必要な知識・技能を身につけるように学習していきます。	1 後	1			○	○		○			
70	○		キャリアデザイン応用(HT) I B	就職活動の流れを理解し、就職内定に向け、積極的に自己分析を行なう。また、筆記試験や提出書類の対策、基本的なビジネスマナーを身につけ、就職面接試験にて、存分に自己表現ができるよう対策を行います。	1 後	1			○	○		○			
71	○		Hotel Research SB	ホテル業界に必要な基礎知識を学び、ホテリエとして素養を身に付ける。	1 後	1			○	○		○			
72	○		レストランサービス実習 SB	ホテル・レストランで勤務する場合の基礎知識習得を目指して、主に什器備品の名称や用途、それら各種道具類についての基礎学習を取り扱います。	1 後	1			○	○				○	
73	○		Food & Beverage基礎 I B	ホテル・レストランで勤務する場合の基礎知識習得を目指して、料理や飲料の幅広い基礎学習に加えて、具体的なテーブルサービスやプロトコールの周辺学習を取り扱います。	1 後	1			○	○				○	
74	○		Hotel English I B	前期に引き続き、ホテル業界で求められる専門的な英語表現を学ぶ。特に、前期で学んだ「英語での接客対応力全般」の土台をもとに職種や業務に応じた具体的、実践的な英語表現を徐々に学び、様々なお客様への初歩的な対応ができる基礎を身につけることを目指す。	1 後	1			○	○		○			
75	○		フロントオフィスサービス B	宿泊部門で求められている知識を習得することを目指して、各セクションの業務内容や基礎知識を取り扱います。又、接客技術やマナーを体得することを目指して、各セクションのロールプレイングを多用し、現場対応力を身に付けていきます。	1 後	1			○	○				○	
合計					75	科目	134 単位								

卒業要件及び履修方法			授業期間等	
卒業要件:	62単位		1学年の学期区分	2 期
履修方法:	・卒業に必要な総単位数を満たしていれば、卒業は可能だが、カリキュラムに記載している必修及び選択必修科目はすべて履修することを定めている。		1学期の授業期間	15 週